

2015年度（平成27年度）事業報告

1. 相談業務

①電話相談

開局して31年が経過した。24時間年中無休体制で対応している。2015年（2015年1月1日～12月31日）の受信件数は14,789件（前年15,973件）、受信時間数は7,918時間24分（前年7,681時間23分）で、1日の平均受信件数は40.5件、1件あたりの平均時間数は32.1分（前年28.9分）であった。そのうち自殺志向を伴う相談が1,898件（前年1,841件）あった。

②インターネット相談

インターネットを活用したメール相談を2011年4月から実施している。現在、全国10センターで相談対応を実施している。2015年の受信件数は全国で3,065件（前年3,194件）、そのうち福岡は281件（前年253件）を対応した。

③自殺予防いのちの電話（厚生労働省補助事業）

2001年から、全国共通番号（フリーダイヤル回線）による自殺予防専用相談を全国のいのちの電話で取り組んでいる。

毎月10日の8:00から翌8:00まで24時間体制で対応。2015年は延べ210名が担当し、674件（前年610件）の相談に応じた。

2. 相談員の養成と継続研修

（1）電話相談

①電話相談員実働数 167名（2016年3月末現在）

②電話相談員の養成について

第40期生 14名（2014年10月～2016年8月）

第41期生 11名（2015年10月～2017年8月）

養成段階スーパービジョンを年15回開催し延べ35名が参加した。

③電話相談員の継続研修

・全体研修を4回開催し、養成講座を含め18回の研修を実施した。

第1回 5月13日 「いっしょにやるということ」 63名参加 講師：加留部 貴之氏

第2回 8月22日 23日 分科会研修 71名参加

分科会1 「自己を振り返る」

講師：草野 智洋氏

分科会2 //

講師：衛藤 暢明氏

分科会3 //

講師：松尾 公孝氏

第3回 12月12日 「適応と不適応の心理」 73名参加 講師：野島 一彦氏

（フリーダイヤル研修を兼ねる）

第4回 2月20日 「スーパービジョンから見えるもの」 67名参加

（フリーダイヤル研修を兼ねる）

パネラー：岡 秀樹氏

瀬里 徳子氏

田中 克江氏

コーディネーター：松尾 公孝氏

・補 講

第40期、41期生ボランティア養成講座・16回

6月27日 社会資源班自主研修「多様な性を生きる人々」 講師：小嶋ローマ氏 27名参加

7月4日 「情報化社会における相談対応の実践事例」 講師：戸高 成人氏 49名参加

7月9日 「うつ病市民啓発講演会」 講師：内村 直尚氏 2名参加
10月16～18日 第33回いのちの電話相談員全国研修会かごしま大会 15名参加
2月28日 リフレッシュワーク 講師：本山 智敬氏 11名参加

・グループスーパービジョンを年96回開催し延べ776名が参加した。

・自主研修会の開催

FINDカフェ（ロールプレイ研究会 講師：福永昭子氏）を11回行った。

ケースと私・事例研究（講師：福盛英明氏）を10回行った。

・いのちの電話関係の大会等への参加

第33回いのちの電話相談員全国研修会かごしま大会(10月16日～18日) 15名参加

④電話相談員養成サポーター（ボランティアリーダー）の研修。

・経験と資質を備えた相談ボランティアの中から、相談員の養成課程で協力する養成サポーターの新規養成及び継続研修を7月11日、12日（講師 野島一彦氏）に実施した。11名参加

・養成サポーター自主研修会を6月28日（講師 本山智敬氏）と2月28日（講師 松浦賢長氏）に実施した。8名参加

(2) インターネット相談

①相談員実働数 16名（2016年3月末現在）

②相談員養成講座（10月～2月）1名受講

③継続研修の実施

・9月14日 「発達障害が疑われる相談」講師；横田和子氏 18名参加

・10月24日 「精神疾患が疑われる相談」講師；野口理英子氏 13名参加

・12月18日 「若者からの相談に対する返信について」講師；岡田健一氏 15名参加

・2月6日 「事例による返信文作成演習」講師；松尾公孝氏 11名参加

④福岡センターインターネット相談員の集い 5月16日 15名参加

⑤インターネット相談実施センター事務局会議・研修担当者会議への参加 2月13日(東京3名参加)

3. 自殺防止対策啓発事業

朝日新聞厚生文化事業団と共催で自殺防止公開講座「自殺ちょっと待って一思いとどまってもらうために一」を9月19日に都久志会館ホールで開催した。200名参加（一般市民を含む）

講演「こころの健康～仏心は歌心～」講師；南 恵照氏

4. 広報活動

①季刊の広報紙「福岡いのちの電話」No.121～124No.を発行した。

②ホームページの更新

③フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」の実施に向けて、ポスター、カードを配布した。

④テレビ、新聞等による広報活動

9月11日、毎日新聞「自殺防止公開講座案内及び相談員募集」記事掲載、9月13日、西日本新聞「相談員募集」記事掲載、9月、朝日新聞「自殺防止公開講座案内」記事掲載、2016年2月17日、西日本新聞「相談員不足及び相談員募集」記事掲載

⑤オリジナル支援自販機で相談電話番号等を掲示

支援自販機の設置（2016年3月末現在）

・九州大学病院 ・朝日新聞上杉販売店 ・朝日新聞ASA鳥栖 ・西日本新聞社製作センター

・西日本新聞社本社ビル10F、11F ・(株)福岡住宅情報センター ・(有)ダイキ通信工業

5. 募金・後援活動の推進

①後援会・法人合同役員会の開催（7月23日）

②後援会主催チャリティコンサート

- ・チャリティ里帰り寄席（8月6日九州キリスト教会館ホール）入場者数 163 名
- ・吉川よしひろスタンディングチェロ（11月9日九州キリスト教会館ホール）入場者数 145 名
- ・弦楽四重奏の夕べ（3月8日福岡市市民福祉プラザホール）入場者数 200 名

③事業ボランティア会活動

- ・例会の随時開催
- ・手づくり会の定期開催（毎月第2第4火曜日）
- ・後援会主催チャリティコンサート等への協力
- ・福岡城東ライオンズクラブ主催のチャリティゴルフ大会（10月17日）の手伝い
- ・ハートフルフェスタ福岡 2015（10月3、4日）に参加し、広報を行った
松尾教育委員長による講演（10月3日）
交流ブースバザー出店（10月4日）

6. 各種委員会・班会の定例的開催

①理事会を12回、評議員会を3回開催した。

②教育委員会を11回開催した。

定例教育委員会の開催（8月を除く毎月開催）

養成サポーターとの交流会（7月31日）

拡大教育委員会の開催（2月10日）

③相談活動運営委員会を毎月1回開催した。

④研修運営班、広報活動班、社会資源研究班、受信資料検討班の班会の随時開催。

⑤運営委員会主催の、相談員相互の意見交換を行う「語り場」を毎月1回開催した。

7. 会員相互の親睦と活動の活性化

①会員総会の開催 7月4日に相談ボランティア、事業ボランティア、役員、訓練スタッフ、後援会資金ボランティアを交えて会員総会を開催した。89名の参加があった。

併せて講演「情報化社会における相談対応の実践事例」（講師 戸高成人氏）を行った。79名が参加。総会後の懇親会には43名が参加した。

②相談員集会の開催 6月13日に相談員集会を開催。35名の参加があり、相談活動の中での課題等について意見交換を行った。

③開局31周年記念日の集いの開催 11月23日に「福岡いのちの電話開局記念日の集い」を開催。役員、後援会、ボランティア30名が参加し交流を行った

④内部機関紙「りーんりん」の発刊。相談員相互の融和と情報交換を図るための内部機関紙95号～97号を発刊した。

8. 統計資料の整備充実

受信資料検討班において「深夜帯の相談」の分析作業が行われた。

9. 委託事業の実施

福岡市子ども総合相談センター電話相談（深夜）の業務委託を受け、延べ720名が担当した。

10. 講師等の派遣

・ソロプチミスト太宰府例会（1月19日）において卓話を行った

・城東ライオンズクラブ35周年記念例会（3月10日）において卓話を行った

11. 関係会議への出席

九州地区いのちの電話事務局担当者会議（6月27日 北九州）

九州地区いのちの電話研修担当者会議（6月28日 北九州）

日本いのちの電話連盟定期総会（6月7日 京都）

日本いのちの電話連盟事務局長会議（7月5日～7日 東京）